こうふ未来創り重点戦略プロジェクト施策・事業に係る進捗状況等一覧

NO.	基本政策	施策・事業等の名称 ※➢は、関連する施策・事業	概要	平成28年度の取り組み状況							今後の予定						所管部・課
				平成２８年度	平成２８年度の予定	平成28年度の進捗	主な実績等	課題等	主な実績等に係う事業名等	平成２８年度実績額（単位：千円）	平成２９年度	平成２９年度の予定	平成２９年度に実施予定の事業名等	平成２９年度当初予算額（単位：千円）	平成３０年度（予定）	平成３１年度（予定）	
12	（３） 「くらし潤うまち」を創る	「首都圏広報官チーム」によるシティプロモーション活動の推進	首都圏広報官チーム（注4）を中心に、首都圏などを重点的なターゲットとしたシティプロモーション活動の一層の推進や、市長のトップセールスの積極的な展開など効果的な戦略を図る。 　また、新たな視点に立った首都圏などでのシティプロモーション活動も視野に入れる中で、早期に「シティプロモーション戦略プラン」の見直しを図る。 （注4）首都圏広報官チームは、首都圏を中心にシティプロモーション活動を戦略的に展開する職員により構成。	推進	・平成27年度の取組を検証・評価する中で、現行の「甲府市シティプロモーション戦略プラン」の見直しを図りながら、本市の魅力を確認し発信する「ブランド戦略」と「訴求戦略」を総合的に展開するための新たな「甲府市シティプロモーション戦略基本指針」の策定作業を進めている。 ・9月末を目途とする「甲府市シティプロモーション戦略基本指針」の策定に向け、市民等に対する「魅力創造調査」、庁内各部署に対する「プロモーション活動実態調査」、企業等に対する「プロモーション戦略に関する調査」などを集計分析する中で、魅力創造に繋がる地域資源を整理していく。 ・また、観光や産物、居住地等の分野類型ごとの認知度の向上策など効果的な戦略等を整理していく。 ・策定したシティプロモーション戦略基本指針については、基本戦略会議において決定し、全庁を挙げたプロモーション活動につなげていく。	B	・「甲府市シティプロモーション戦略基本指針」において、基本的な考え方をまとめた。	・首都圏広報官等の推進体制を構築していく。	－	－	推進	・首都圏広報官の配置	2-1-4 シティプロモーション事業費	215	推進	推進	市長直轄組織 シティプロモーション課
				－	－	－		－	－	－							
13	（３） 「くらし潤うまち」を創る	中心市街地の居住・定住化などの促進 ➢まちなか不動産バンク事業の充実 ➢ＬＬＣまちづくり甲府と連携したまちなか再生事業の推進 ➢中心市街地駐車場の利便性向上施策の構築 ➢遊休不動産のリノベーション事業の推進 ➢中心市街地定住促進事業補助制度の拡充 ➢甲府銀座ビルの再整備事業及び周辺環境の整備 ➢甲府市中心市街地活性化基本計画区域内における高度利用地区内の新築耐火建築物に対する税負担の軽減 ほか	中心市街地活性化基本計画に基づき、多様な主体との効果的な連携など幅広い視点に立った包括的な施策を展開し、居住・定住化などの促進を図るとともに、税制の支援に努めるなど中心市街地の拠点を再生し、その効果を周辺へ波及させる。	推進	中心市街地まちづくり会議等により、中心市街地活性化に資する事業の調査・研究等を行う中で、必要に応じて、中心市街地活性化基本計画に事業追加をしていく。 ＬＬＣまちづくり甲府と連携し、中心市街地の空き家、空き店舗等の実態調査を実施するとともに、オーナーに対してまちなか不動産バンクへの登録勧奨を行うなど、遊休不動産の利活用を推進する。	B	「中心市街地まちづくり会議」において、再整備が実施されている旧銀座ビル1階の商業床スペースの活用策について議論を行い、市に対して提言をいただく中で、スペースを所有する民間業者と協議を行った。 LLCまちづくり甲府と連携し、中心市街地の空き家、空き店舗等の実態調査を行った。	現在取り組んでいる事業の検証を行う中で、今後も中心市街地の活性化に資する取組を推進していく。	2-1-9 中心市街地活性化基本計画推進事業費	2,274	－	－	－	－	－	－	企画部 地域振興課
				推進	・甲府市リノベーションまちづくり構想策定委員会を開催する。（第1回委員会を6月21日に開催。全5回を予定。） ・リノベーションスクール@甲府を開催する。（9月30日～10月2日での開催を予定。）	B	①甲府リノベーションまちづくり構想策定委員会を計6回開催し、委員会としての構想を完成させた。これを元に、庁内関係部署による協議を行い、甲府市としての構想を策定した。 ②9月30日～10月2日に第１回リノベーションスクール@甲府を開催し、紅梅通りに面した空物件を中心にスプループ＆リノベーション事業計画を立案した。	民間主導のまちづくりが進められるよう支援を行うとともに、リノベーションの成功事例を創り出す。	7-1-2 ①・②中心市街地商業等活性化事業費	①委託料　7,984 ②委託料　5,421	推進	①「甲府リノベーションまちづくり構想策定委員会」委員を中心とした推進委員会を新たに設置し、年度内に４回程度の会議を開催する。 ②遊休不動産オーナーの協力を得る中でスクール対象物件を選定し、第２回リノベーションスクール@甲府を開催する。	7-1-2 ①・②中心市街地商業等活性化事業費	①・②（仮称）甲府市リノベーションまちづくり推進委員会補助金　6,000	推進	推進	産業部 商工課
				－	－	－					推進	引き続き、甲府市中心市街地活性化基本計画の計画記載事業として位置付ける中で、商業施設等の拠点の形成の誘導を推進する。	－	－	推進	推進	企画部 地域振興課 市民部 資産税課
				推進	引き続き同様の支援を行う。	B	・住宅取得支援事業助成金　　5件 ・住宅改修支援事業助成金　　2件	・事業の周知	8-3-2 中心市街地定住促進事業費	2,293	－	－	－	－	－	－	建設部 都市計画課
				推進	・甲府銀座ビルの再整備事業 引き続き年度ごとの事業の進捗を図る。 ・周辺整備 都市再生整備計画に計上していく。	B	・工程管理を行い、事業者の計画的な事業進捗を推進した。 ・周辺道路整備について、都市再生整備計画の変更を行った。	・工事に伴い発生する騒音・振動等の環境面の対策における周辺住民等との調整 ・計画的な事業進捗の確認及び工程管理	8-3-1 優良建築物等整備事業費	229 （現年予算） 110,926 （繰越明許費：都市基本計画推進事業）	－	－	－	－	－	－	建設部 都市計画課
14	（３） 「くらし潤うまち」を創る	ジュエリー関連企業の集積による産業の活性化と雇用対策	ジュエリー関連企業の集積による産業の振興を図るため、甲府ブランド認定制度等を活用した新たな商品開発の促進や購買力を高める取組を推進するとともに、若手クリエイターの出店を支援することにより、若者の雇用の拡大を図る。	推進	①甲府ブランド認定制度：クラフト系部門 継続してPR及び販路拡大の支援を行う。 ②「甲府市中心市街地空き店舗活用事業補助金交付制度の推進」 補助金交付制度の周知を図り、ジュエリー・クラフト関係店舗の集積に努める。 ③ジュエリー・クラフト拠点店舗運営事業 「甲府クラフトラボ」の出展者を定期的に入れ替え、多くの者にチャレンジの場所として提供し、新たな起業や「ジュエリー・クラフト集積エリア」の空き店舗などへの出店、雇用の創出を目指す。	B	①「甲府ブランド認定制度（クラフト系部門）の推進」 クラフト系部門では、イオンモール成田で行った甲府ワイン＆ジュエリープロモーションにおいて、認定品の展示や研磨実演によりＰＲを行った。 ②「甲府市中心市街地空き店舗活用事業補助金交付制度の推進」 ＨＰや合同会社まちづくり甲府が平成２８年１２月から行っている「まちなか空き物件見学会」（月１回）に同行し、制度をＰＲした。 ③「ジュエリー・クラフト拠点店舗運営事業の推進」 ジュエリーやクラフト系のクリエイターのためのチャレンジショップ「甲府クラフトラボ」に年間で１１ブランド１５名の出展者を確保し、創業等の支援を行った。	平成２７年１１月に空き店舗活用事業において設定した「ジュエリー・クラフト集積エリア」への出店が無いことから、甲府クラフトラボの出展者への支援や「まちなか空き物件見学会」参加者、宝飾関係事業者へのＰＲなどを通じて出店を目指す。 空き店舗調査や合同会社まちづくり甲府との連携により、空き店舗情報を収集し活用する。	7-1-2 ①②地場産業振興対策事業費 ②中心市街地商業等活性化事業費	①196 ②4,858 ③3,814	推進	①甲府ブランド認定制度 新規認定に取り組むとともに、認定品について継続してPR及び販路拡大の支援を行う。 ②「甲府市中心市街地空き店舗活用事業補助金交付制度の推進」 補助金交付制度の周知を図り、ジュエリー・クラフト関係店舗の集積に努める。 ③ジュエリー・クラフト拠点店舗運営事業 「甲府クラフトラボ」の出展者を定期的に入れ替え、多くの者にチャレンジの場所として提供し、新たな起業や「ジュエリー・クラフト集積エリア」の空き店舗などへの出店、雇用の創出を目指す。	7-1-2 ①②地場産業振興対策事業費 ②中心市街地商業等活性化事業費	①173 ②6,400 ③2,993	推進	推進	産業部 商工課

15	（3） 「くらし潤うまち」を創る	「中小企業・小規模企業振興条例（仮称）」の制定や「創業支援事業計画（仮称）」の策定による産業の育成と雇用の拡大	中小・小規模企業や創業者の支援等について実効性のある条例の制定や計画を策定し、創業をはじめ、経営の永続や成長、拡大など各段階に応じた産業の育成や雇用の拡大を図る。	推進	①創業支援事業計画 創業支援事業者担当者会議を年３回程度行うとともに、創業希望者のニーズに的確に対応できるよう創業支援事業者と連携を図る。	B	①「創業支援事業計画の推進」 ＊甲府創業支援ネットワーク」担当者会議 相談窓口担当者情報交換会　H28.6実施 担当者会議 H28.10、H29.3実施 ＊特定創業支援事業証明書交付　２件 ＊創業支援事業計画の取り組み実績（支援者数、創業者数） （ア）創業支援対象者 目標３２６件　【実績２５８件】 （イ）創業者数 目標１１８件　【実績　９２件】 ＊甲府市中心市街地空き店舗活用補助金 （ア）新規　16件 （イ）継続　９件	創業支援ネットワークの各機関の担当者との連携を深め情報の収集やノウハウの蓄積を図っていく。 やまなし産業支援機構へ派遣した職員と連携し、相談窓口での対応強化を図るとともに、産業支援機構においては、工業系、第二創業の経業を目指し、本市では、拠点店舗や空き店舗活用補助金を活用して、出店者、創業者を増やしていく。	7-1-2 ①中心市街地商業等活性化事業費	甲府市中心市街地空き店舗活用事業補助金 4,858	推進	①創業支援事業計画 創業支援事業者担当者会議を年３回程度行うとともに、創業希望者のニーズに的確に対応できるよう創業支援事業者と連携を図る。 空き店舗活用事業補助金を活用して、中心街での創業者を増やす。	7-1-2 ①中心市街地商業等活性化事業費	甲府市中心市街地空き店舗活用事業補助金　6,400	推進	推進	産業部 商工課
				実施	②「中小企業・小規模企業振興条例（仮称）」 骨子案に対するパブリックコメントを実施（平成28年5月2日から平成28年5月31日）するとともに、第4回甲府市産業振興検討委員会を開催（平成28年6月29日）し、骨子案に対する承認を得た。 今年度中に「（仮称）甲府市中小企業・小規模企業振興条例」を制定するとともに、条例に伴う効果的な施策の立案と計画的な取組を推進していくため、「甲府市商工業振興指針」の見直しを図る。	B	②甲府市中小企業・小規模企業振興条例 ・骨子案に対するパブリックコメントを実施した。（平成28年5月2日から平成28年5月31日） ・「甲府市産業振興検討委員会」を4回開催した。（第4回：平成28年6月29日、第5回：平成28年8月2日、第6回：平成28年9月28日、第7回：平成28年11月17日） ・政策会議を実施した。（平成28年11月14日） ・12月市議会定例会へ条例案を提出し、議会の可決を経て「甲府市中小企業・小規模企業振興条例」を制定した。（平成28年12月22日） ・条例に基づき、「甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会」を設置し、条例に基づく施策・事業について洗い出しを行った。（平成29年2月24日） ・条例に伴う効果的な施策の立案と計画的な取組を推進していくため、「甲府市商工業振興指針」の見直しを図った。	条例に基づく施策及び事業を総合的かつ計画的に推進していくとともに、関係団体等に条例の周知を図る。 また、条例に位置づけた「甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会」を新たに設置し、中小企業・小規模企業の振興に関する施策の調査審議を行っていく。	7-1-2 ②商工業推進事業費 7-1-2 ②特別職給与費	②商工業推進事業費 報償費　149 ②特別職給与費 報酬　41		②甲府市中小企業・小規模企業振興条例 条例に基づく事業を推進するとともに、「甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会」を開催し、中小企業・小規模企業の振興に関する施策の調査審議を行う。	7-1-2 ②商工業推進事業費 融資対策事業費 地場産業振興対策事業費 7-1-2 ②特別職給与費	②商工業推進事業費 8,919 融資対策事業費 1,090 地場産業振興対策事業費 500 ②特別職給与費 372			
16	（3） 「くらし潤うまち」を創る	甲府が誇れる地域資源を活かした観光振興や誘客促進	豊かな「自然」や重層的な「歴史」・「文化」など各分野で、甲府が世界に誇れる多様な地域資源の効果的なプロモーションを行うとともに、その推進体制を強化し、観光の振興や交流人口の増加を図る。	推進	①無料Wi-Fi設置推進事業 関係機関と連携して無料Wi-Fiの整備推進を図るとともに、Wi-Fi設備を活用した集客イベントを実施していく。 ②着地型観光事業 アンケート等の分析を踏まえ、引き続き本市の観光資源を生かしたワイン列車等のモニターツアー等の着地型観光を推進していく。 ③観光プロモーション事業 ターゲットを明確にした中で郷土の英雄「武田信玄」、「国産ワイン発祥の地」、日本一の葡萄を誇る「ジュエリーのまち甲府」を柱としたブランディングを行い、その他の地域資源については、これらとの組み合わせによるプロモーションを実施していく。	B	①無料Wi-Fi設置推進事業 関係機関と連携して無料Wi-Fiの整備推進を図るとともに、無料Wi-Fiスタンプラリーイベントを実施した。 ②着地型観光事業 アンケート等の分析を踏まえ、本市の観光資源であるワインを基能にしてもうう特別列車を活用したツアーや「女子旅」をテーマにモニターツアーを実施した。 ③観光プロモーション事業 インドネシアやアメリカ（県連携）の発信力の高いブロガーを招聘、マレーシアの旅行会社関係者・フィリピンの芸能人ファムトリップの実施、インバウンド向けインターネット広告事業、観光パンフレット多言語版の増刷等を実施した。 ④関東観光広域連携事業推進協議会会員となり、インバウンド観光による誘客を目的に広域で連携して活動していくこととし、台湾旅行会社、タイの留学生によるモニターツアー、台湾へのセールスコールを実施した。	モニターツアー等をいかに旅行会社のツアー造成に結びつけ、誘客を図るかが課題である。	7-1-3 観光開発事業費	21,027	推進	①宿泊誘引プロモーション事業 宿泊クーポン付き広告事業の実施 ②着地型観光事業 着地型観光等ツーリズム支援補助金による支援	7-1-3 観光開発事業費	11,476	推進	推進	産業部 観光課
17	（3） 「くらし潤うまち」を創る	「甲府大好きまつり」の魅力の向上	開府500年やリニア（注5）時代の到来を見据え、市民ニーズや観光客のニーズの多様化に考慮した、より質の高い、魅力あるまつりへの転換を図る。 （注5）リニア中央新幹線の略（以下「リニア」という）。 リニア中央新幹線は、東京－大阪間を最速約50ｋｍ／時で結ぶ新たな新幹線であり、平成39年（2027年）の東京－名古屋間の開業を目指して、本格的な準備が始まっている。	実施	新たな祭りの開催方法については、公募型プロポーザルにより企画・運営事業者について広く民間から募る中で、内容を決定し、８月11日の祝日「山の日」に開催する。 甲府大好きまつりは、「市民まつり」として企画の充実を図るとともに、より効果的な実施体制について検討していく。	B	①小江戸甲府の夏祭りの開催 日時：８月１１日（木・祝） 場所：舞鶴城公園・よっちゃばれ広場 概要：こうふ開府500年に向けた祭りとして位置付け、甲府城を舞台に市民はもとより市外・県外からの誘客を目的に「小江戸文化が感じられる城下まつり」をコンセプトに開催した。 来場者数の目標1万人を大きく上回り、18,562人を数えた。 ②第28回甲府大好きまつりの開催 日時：１０月２９日（土） 場所：小瀬スポーツ公園 概要：小瀬スポーツ公園に会場を移すとともに、甲府市農林業まつりと同時開催の相乗効果により、来場者数は41,000人を数えた。	①小江戸甲府の夏祭り開催 更なる祭りの充実に向けて、運営方法や実施体制の強化、市外・県外に向けてのＰＲの強化、企画内容の充実や地域住民の参画する仕組みづくり等の対応策を検討していく必要がある。 ②甲府大好きまつりの開催 小瀬スポーツ公園に会場を移しての開催による新たな課題として、駐車場の確保、出店（飲食）の充実、音頭参加者の移動、山車の移動等について対応策を検討していく必要がある。	7-1-3 まつり推進事業費 ①小江戸甲府の夏祭り ②甲府大好きまつり	19,546	推進	第29回甲府大好きまつり開催	7-1-3 まつり推進事業費 甲府大好きまつり	700	推進	推進	産業部 観光課
18	（3） 「くらし潤うまち」を創る	「山の日」の活用	平成28年から8月11日が「山の日」として、祝日に制定されたことから、環境保全活動を通じた山や森林の役割、自然の恩恵について見つめ直す機会を創出するとともに、快適な登山環境の整備に努め、自然を愛する登山愛好者などを呼び込んでいく。	実施	金峰山において、記念登山を実施する。（平成28年8月11日） また、記念事業第2弾として三方分山に登山（10月22日）するとともに、第3弾として講演会（11月26日）を行う。	B	①金峰山において、記念登山を実施した。 平成２８年８月１１日　　参加者数２３名 ②第２弾として、三方分山への登山を実施した。 平成２８年１０月２２日　参加者数２０名 ③第３弾として、講演会を行った。 平成２８年１１月２６日　参加者数６７名	登山事業については予定どおり事業を実施したが、講演会については広報やホームページ、チラシ配布などＰＲに努めてきたが、当初予定の１００名には達しなかった。 今後、同様の講演会を行う際には、ＳＮＳやラジオ等を活用した多様な情報発信を行う必要がある。 また、登山事業については、応募者が多く、実施回数を増やすなど予算を含めた体制強化の必要がある。	6-2-2 森林林業普及啓発事業費	2,913	推進	「山の日」に、舞鶴上公園を主会場にした“小江戸甲府の夏祭り”を開催するとともに、金峰山への記念登山を実施し、交流人口の増加による地域の活性化と魅力発信を図る。	7-1-3 まつり推進事業 6-2-2 森林林業普及啓発事業	13,000 2,133	推進	推進	産業部 観光課 林政課

19	（3） 「くらし潤うまち」を創る	「開府500年」や「信玄公生誕500年」を見据えた「歴史物語都市こうふ」の推進 ➢武田氏館跡を中心とした史跡・文化財等の整備 ➢甲府城周辺地域の整備 ➢まちなか回遊道路の整備 ➢遊亀公園及附属動物園の整備 ほか	開府500年（平成31年）や信玄公生誕500年（平成33年）を迎えるにあたり、武田三代をはじめ、小江戸文化や明治期の近代化など重層的で多様な歴史・伝統・文化を振り返り、市民が上り一層、我がまちを誇りに感じ愛着を深められるよう一体的な意識の醸成を図り、この節目を祝うとともに、本市の輝かしい未来に向かって、想いを共有できるような機会を創出する。 　また、魅力発信の好機として効果的なシティプロモーション活動を展開するとともに、武田氏館跡を中心とした史跡・文化財などについても着実な整備を進め、「歴史物語都市こうふ」の実現に向けた全庁的な取組を推進する。	準備	開府500年及び武田信玄公生誕500年に向け、全庁体制で取り組むため、5月に庁内推進本部・幹事会・部会を設置し、事業やプロモーション戦略についての調査・検討を進めている。	B	①5月に、こうふ開府５００年記念事業等庁内推進本部などを設置し、幹事会及び部会において、記念事業やプロモーション戦略の調査・検討を行った。 ②1月に、こうふ開府５００年記念事業実行委員会を設立し、下部組織である実行委員会及び専門部会において検討した第一次実行計画（案）を、3月の実行委員会総会で承認・決定した。 ③記念事業を発信する上で不可欠なロゴマークとキャッチフレーズを募集し、3月の実行委員会総会で承認・決定した。	2019年に開府500年という歴史的な節目を迎えることが、市民に十分に浸透していない。	開府５００年記念事業	17,075	準備・実施	①第一次実行計画に定める平成29年度事業を実施する。 ②ロゴマークとキャッチフレーズを活用し、記念事業を周知していく。 【詳細】 ①カウントダウンイベント500日前 ②カウントダウンイベント300日前 ③リレーフォーラム2017 ④記念事業の公式ホームページの開設 ⑤テレビ、ラジオ、新聞を活用したＰＲ．	こうふ開府500年記念事業費	52,000	実施	実施	企画部 開府500年 企画課
				推進	「史跡武田氏館跡第2次整備基本計画」に基づき、実現可能な計画へと見直しを図るとともに、総合案内所の平成31年3月完成を目指す。	B	①史跡武田氏館跡を中心とする城下町の散策ルートの設定を検討する。 ②甲府歴史ボランティアガイドの育成事業を行った。	・庁内で検討されている、サイン計画との調整を図る必要がある。 ・他ボランティア団体との協力・調整を図る必要がある。	10-7-2 開府500年甲府の歴史を学ぶ事業費	92	推進	史跡武田氏館跡の保護・活用を図るため公有地化事業及び発掘成果により史実に基づいた整備工事を実施する。併せて地域の歴史資産を通じて、地域住民や市民が故郷の価値を知り、歴史を学び、郷土への興味を広げるガイダンス施設を整備する。 ・稲荷曲輪ゾーン（第2次）整備工事を行う。 ・ガイダンス施設整備は、先行して旧堀田家住宅の大規模修繕工事に着手し、4月に工事起案、6月に落札後着工を予定。総合案内所建設16月補正にて対応し、9月に工事起案、11月に落札、12月議会にて議決承認後、着工する。併せて管理・運営計画を策定する。	10-7-2 史跡武田氏館整備事業費	146,397 ・史跡武田氏館跡稲荷曲輪ゾーン（第2次）整備工事 ・旧堀田家住宅大規模修繕工事 ・総合案内所建設建設工事	推進	推進	教育部 生涯学習文化課
				準備	基本計画（案）について、パブリックコメントを実施し、基本計画を県市共同で策定する。 ・導入機能・事業手法・事業主体を主な内容とする実施計画を策定する。	C	・基本計画（案）について、パブリックコメントを実施した。 ・県市共同で基本計画を策定した。 ・事業エリアの関係者等に、説明会や意見交換会及びアンケートを実施した。 ・導入機能や事業手法及び事業主体等を検討し、実施計画の策定に向けた取組を行った。	・実施計画について庁内の合意形成を図る。 ・実施計画の策定について、県市の合意形成を図る。 ・実施計画について、地元住民や関係者等に理解を得る。	8-3-1 甲府駅南口周辺地域修景計画整備事業費	2,000 （現年予算） 9,925 （繰越明許費：都市計画推進事業費）	準備	・県市共同で実施計画を策定する。 ・地元住民や関係者等に事業に対する理解を得る。 ・整備に向けた測量等の取組を行い、事業の推進を図る。	8-3-1 甲府城周辺地域活性化計画整備業費	2,430 （現年予算） 5,000 （繰越明許費：南口周辺地域修景計画整備事業）	準備	準備	建設部 都市計画課
				準備	用地買収・道路工事・踏切工事等を順次行い、平成31年度の整備完了を目指す。	B	・不動産鑑定及び物件算定委託件数 2件 ・事業用地購入契約件数 3件 ・家屋等移転補償契約件 4件	回遊道路工事が、JR踏切の拡幅を含むものであるため、JRへの委託工事扱いになることから各関係機関と綿密な調整を行う必要がある。また、踏切拡幅工事に伴う、家屋及び支障物件の移転が当初の予定より若干遅れていることから、期間内に整備完了するための詳細な進捗管理を行う必要がある。	8-3-3 甲府駅周辺拠点形成事業費	48,952	—	—	—	—	—	—	建設部 区画整理課
				準備	引き続き地域住民に計画案の説明を行う中で、パブリックコメントを実施し、計画を策定する。また、整備に関わる事業手法についても併せて検討していく。	C	・隣接する自治会の住民を対象とする説明会を開催し、動物園・公園の規模や施設の配置方針などを説明した。 ・動物に関わる調査研究機関である学校法人帝京科学大学と遊亀公園付属動物園における教育普及活動及び研究活動について、連携協定を締結した。 ・具体的な建物の配置やゾーニングを検討するとともに、敷地の形状、面積、高低差、地質の構成や地盤の特性、地下水位を把握するため、測量・ボーリング調査（地盤調査）を実施した。 ・環境教育の充実を図るため、希少種であるユキヒョウを導入した。	・住民説明会では「都市型動物園の課題」など、様々なご意見やご要望をいただいた。しかしながら、「こども発優先のまち」創りの実現においては「子育て世代」の意見をいただく機会が無かった。	8-3-6 ・遊亀公園測量業務委託 ・遊亀公園・附属動物園地質調査業務委託	3,267 ・遊亀公園測量業務委託 ・遊亀公園・附属動物園地質調査業務委託	準備	・展示手法や動物管理などの具体的な事項を検討するとともに、子育て世代を中心としたワークショップを開催し、意見を取り入れた整備計画（原案）を作成する。 ・内閣府の「民間資金等活用事業調査費補助事業」を活用し、持続可能な運営体制の構築に向けPFI等の事業手法について調査・検討する。	8-3-6 ・甲府市遊亀公園・附属動物園整備計画（原案）作成業務 ・甲府市遊亀公園・附属動物園整備における民間資金等活用事業調査業務（繰越事業）	13,493 ・甲府市遊亀公園・附属動物園整備計画（原案）作成業務 19,548（繰越分） ・甲府市遊亀公園・附属動物園整備における民間資金等活用事業調査業務（繰越事業）	実施	実施	建設部 公園緑地課
20	（3） 「くらし潤うまち」を創る	甲府市公共サインの統一	開府500年を迎えるにあたり、来訪者が安全で円滑に移動ができるよう自然景観や歴史景観に配慮した、わかりやすく統一感のある公共サインの設置を推進する。	準備	本年度は3回の検討会議を予定しており、平成27年度で承認を受けた基本方針に基づき、基本理念の方向づけ、素案、原案の決定へ向け議論を進め、パブリックコメント、市長決定を経て、本年度中の策定を目指す。	B	・庁内検討会議を3回開催し素案を作成した。 ・「甲府市公共サイン計画」の素案について、パブリックコメントを実施した。 ・計画について、庁内合意を図り、「甲府市公共サイン計画」を策定した。	・平成29年度以降の計画の運用において、計画的かつ効率的な整備を行うため、管理台帳の作成と予算の確保。	8-3-1 景観まちづくり推進事業費	5,619	実施	・計画的かつ効率的な整備を行うための既存の公共サインの管理台帳を作成する。	8-3-1 景観まちづくり推進事業費	100	推進	推進	建設部 都市計画課
21	（3） 「くらし潤うまち」を創る	リニアを活用した「国際交流都市甲府」の実現		準備	更に検討を深め、本年度末を目標に基本構想を策定する。	B	平成28年度においては、平成27年度から継続して開催した庁内委員会や外部委員会から出された意見や提言内容について検討するとともに、平成29年2月には、市民からの意見を聴くためのパブリックコメントを実施し、3月に「甲府市リニア活用基本構想」を策定した。	リニア開業の効果を十分に活かせるよう基本構想の進行管理を着実に行う。	5-1-9 公共交通体系整備推進事業費	7,985	準備	市民や関係機関と連携する中で、本市の活性化に資する様々な施策を実施するとともに、進行管理を着実に行う。	5-1-9 公共交通体系整備推進事業費	524	準備	準備	企画部 リニア政策課
22	（3） 「くらし潤うまち」を創る	交通ネットワークの構築	ＪＲ甲府駅とリニア新駅の連結や、新山梨環状道路など県内の各地域の拠点間を高い速達性をもって接続する幹線と、地域内をきめ細かに巡る地域内交通の役割分担を明確にし、両者を拠点などで接続することで、広域的で利便性の高いネットワークを構築する。	準備	運行に向けバス事業者、市町村との協議、調整を行った後、バス交通ネットワーク再生計画が策定される予定である。	B	山梨県の「甲府盆地南西地域バス路線検討会」に参加（平成28年7月29日・平成29年2月3日）し、バス交通ネットワーク再生計画における地域の交通拠点を結ぶ路線について協議を行うとともに、新規広域的バス路線検討会の中で、新たなバス路線についても検討し、鉄道を利用して移動ができない複数の交通拠点間を結ぶ路線について、将来的運行を関係に投議した。	持続可能な公共交通を支えるため、地域のニーズ等に即した利便性の高い公共交通ネットワークの構築に向けた取組を推進する。	5-1-9 公共交通体系整備推進事業費	0	—	—	—	—	—	—	企画部 交通政策課